

故工藤良一君の逝去を悼む

牧野 泉（9組）

上田二中の同級生だった、プー助こと工藤良一君（1組）の逝去を慎んでお悔やみ申し上げます。

プー助のニックネームは筆者（牧野）が中学時代に名付けたものです。大変地味で真面目で勉強好きのおとなしい良一の明るさを出させるピッタリのニックネームを勝手に満足して、以降ずっとプー助と呼んできました。

良一は、音楽が好きで中学からたった一人の男子で合唱部、高校でもグリークラブで歌唱を楽しんでおりました。しかし、中学の時に全国レベルの音楽の藤沢先生のご指導で上田二中が全国準優勝したときは混声でした。そのため、男子がいないので先生が勝手に歌唱試験をし、7名が参加義務となり皆渋々。その中に65期は6名加わったのです。

矢島好高（7組）、田中穂積（1組）、若柳直人（4組）、清水良（9組）、筆者（牧野）、そして良一でした。

東日本大会で優勝したときに、日比谷公園の音楽堂に行き、優勝曲（故郷をはなるる歌、タンホイザー行進曲）を“カップの中学生”が歌った際に人だかりになり、喝采を浴びたことを思い出します。

更に、高校入学後半年ほど経ったある日、良一から折り入って相談があると言うので、何だよと聞き出したら、学校つまらないから退学して東京に行こうと思う！一緒に行かないか？との誘いであった。目的は？歌手を目指して遠藤実先生の門下生になりたい！と言ったのでした。当時は、橋幸夫、舟木一夫、西郷輝彦、三田明の全盛時でした。

そこで、筆者は、「無理だからやめろ！」理由は、当時TVは白黒でしたが、「まもなくカラーTVになる、良一はヴィジュアルは絶対だめだから諦めろ！」と数回にわたり説得し断念させたのが、故人への最大の思い出である。

近年は、年に何度か、「上田にいつ帰る？」と筆者に電話をくれていました！大変残念です！

プー助、ご冥福を祈る！天国でも思いっきり唄ってくれよ！

（2024年11月7日記）